

大会時および練習時に於ける救命具使用に関する指針（2018年改訂）

公益社団法人日本ボート協会

はじめに(本指針作成の趣旨)

各種スポーツ競技は大小の差はあれ危険を伴うものであり、「絶対安全」なスポーツは存在しない。ボート競技は対戦相手との直接の接触がなく競技自体の安全性は高い反面、水上で行う競技の性格上、ひとたび艇の転覆・沈没といった事態が発生した場合、「溺水」という、大きな生命の危険に直面することとなる。

転覆・沈没の回避が第一義であることは言うまでもないが、それが発生した場合に最も直接的で有効な手段が救命安全用具（以下、救命具という）の使用である。

救命具に関しては2009年の競漕規則改訂により、レース時の携行義務を廃止したが、日本ボート協会が作成した「安全基準作成のためのガイドライン」では「練習時には常時携行する」とのミニマム基準を示すに止め、より高い実効性を実現するために、練習時の常時着用の要否や救命具の種類などの詳細は各水域において決定する「水域安全ルール」によって定めることとしている。

また「大会開催時の安全ガイドライン」においても、当該大会の安全担当組織は「大会安全管理計画」において救命具の着用・携行に関するルールを定めることが規定されている。

本指針は、これらのルールを決定するにあたって参照すべき基本的な考え方および考慮すべき条件項目を掲載した。各水域安全委員会および大会安全担当組織におかれては、各水域や大会の特性を考慮し具体的かつ実効性の高い救命具使用ルールを作成のうえ、水域を使用する各競技団体や大会参加団体に周知徹底を図ることが必要である。

また各競技団体の安全担当者は、競技現場に直接携わる監督・コーチ及びクルー責任者に本基準の周知徹底を図らねばならず、監督・コーチ及びクルー責任者は、これを順守しなければならない。

1. 救命具の基準

日本協会は、国土交通省が小型船舶用法定備品で定める救命胴衣基準に準拠し、必要浮力7.5Kg以上の機能を有する各種救命具を、大会開催時ならびに練習時における救命具とみなす。該当する救命具種類は下記のとおりとする。

- ①自動ガス充填式救命ジャケット若しくはポーチ
- ②手動ガス充填式救命ジャケット若しくはポーチ

③発泡体等の浮力材を内蔵する固形式救命ジャケット

④発泡体を浮力材とする固形式救命浮き輪

2. 救命具の使用基準

2-1:大会時における救命具の使用基準。

救命具使用の要否ならびに採用する救命具種類の選定は、大会の安全担当組織が行う。その判断は下記の各チェック項目を総合的に勘案して下されなければならない。

①安全体制

- a. 審判艇を含め救助艇の必要数は確保されているか
- b. 大会水域を網羅する警備艇の必要数は確保されているか
- c. スポーツドクターによる応急処置体制が整っているか
- d. 管轄する消防署・救急医療施設との連携体制が整っているか

②気象条件

- a. 気象情報を適時・的確に収集する体制が整っているか
- b. 異常気象に遭遇する可能性はないか
- c. 気温・水温・風速の環境測定結果に懸念はないか

③大会内容

- a. 登録選手が対象か、一般市民か
- b. 漕歴 10 年以上のベテランか、1 年未満の新人選手対象か
- c. 中・高・大学生・社会人のいずれが対象か
- d. ナツクル艇かシェル艇か
- e. 舵手付きか舵手なしか
- f. 小艇（1 X、2 X、2 ー、2 +）種目が含まれているか

④その他

- a. 水泳能力の有無と、その程度は確認されているか
- b. 若年層（16 才未満）ならびに高齢層（70 才以上）も参加対象か
- c. 練習時における当該水域の救命具使用ルール

2-2:練習時に於ける安全用具の使用基準

いかなる条件下にあっても、水上練習に際しては「救命具の携行」を必須とし、その常時着用 of 要否や救命具種類の選定は当該水域安全委員会において決定する。決定にあたっては下記のチェック項目を総合的に勘案のうえ判断が下されなければならない。

※コーチ艇などが常に随伴する場合、救命具はコーチ艇に搭載することで可とする。

※以下の場合には携行では不十分であり必ず着用することとする。

- ・低水温時（およそ水温 10℃未満）の乗艇における Cox

- ・中学生以下でボート経験の浅い者（概ね半年程度）が乗艇する場合
- ・泳げない者が乗艇する場合

①監視救助体制

- a.練習水域をカバーする、モーターボートの巡回監視ならびに救助体体制が整っているか
- b.陸上伴走による監視救助体制は整っているか
- c.単独出艇か僚艇との集団出艇か

②練習水域

- a.ボート専用水域か一般船舶の航行もあるか
- b.プレジャーボート等との遭遇頻度はどうか
- c.陸上から目視できる距離及び場所か
- d.浅瀬や護岸杭などの危険個所が有るか
- e.垂直護岸など、転覆時に上陸が困難な状態となっていないか

③競技者レベル

- a.漕歴1年未満の新人か10年以上のベテランか
- b.着衣水泳能力は有るか
- c.中・高・大学生・社会人のいずれが対象者か

④乗艇艇種

- a.舵手付艇か舵手無し艇か
- b.ナツクル艇かシェル艇か
- c.1X、2ーなど横転し易い艇種か否か

⑤コースコンディション

- a.降雨による水量や水流の状態と今後及ぼす影響はどうか
- b.波浪の程度状況はどうか

⑥気象状況

- a.気象情報の確認ならびに、観天望気の結果はどうか
- b.春先の突風など天候急変の可能性はあるか
- c.気温・水温・風速の環境測定結果はどうか

以上